

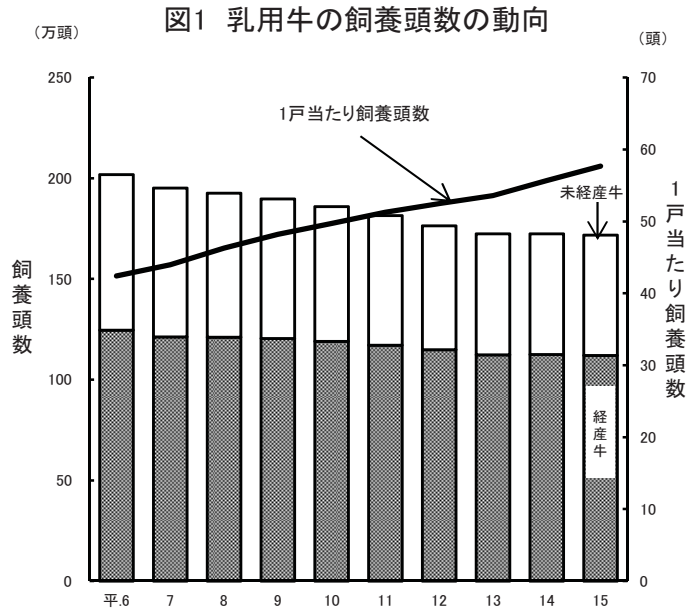
# I 調査結果の概要

## 1 乳用牛の飼養動向

### — 経産牛飼養頭数は112万頭 —

平成15年2月1日現在の全国の乳用牛飼養頭数のうち、経産牛飼養頭数は112万頭、未經産牛飼養頭数は59万8,600頭でともに前年並みであった。

1戸当たりの飼養頭数は58頭で前年に比べ2頭増加した。



資料：農林水産省統計部『畜産統計』による。

## 2 生乳生産量と用途別処理量

### (1) 生乳生産量

#### — 生乳生産量は0.2%増加 —

平成15年の生乳生産量は840万73 tで前年に比べ0.2%増加した。

これは、北海道において飼養頭数の増加等の理由により搾乳量が増加したためである。

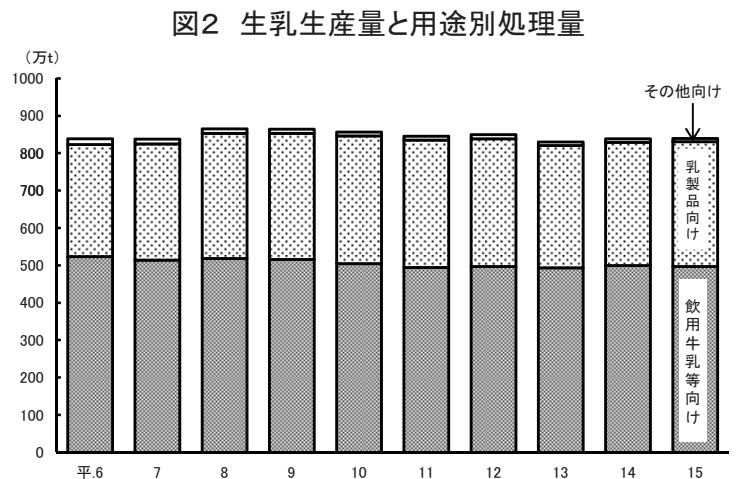
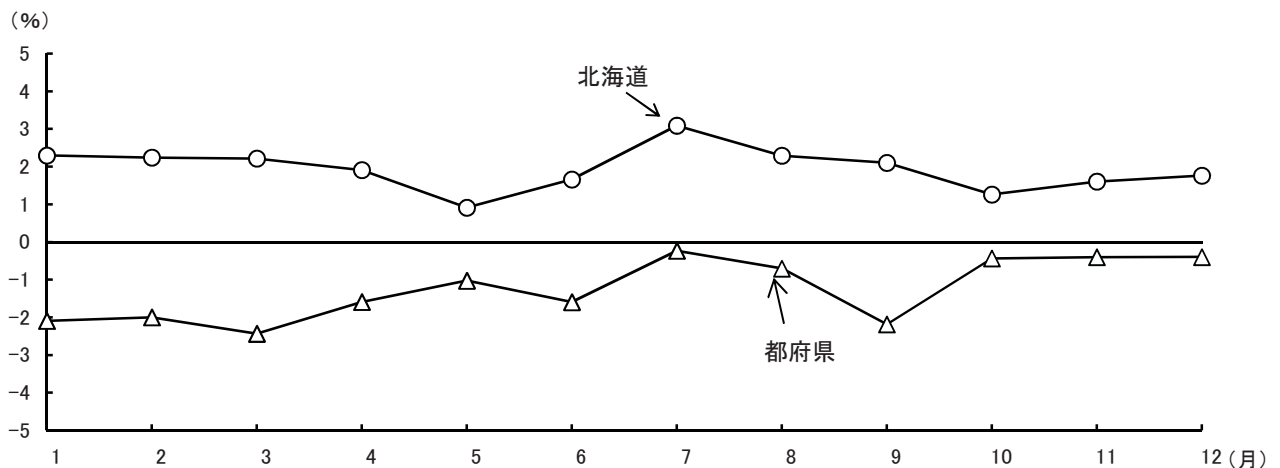


図3 生乳生産量の前年同月に対する増減率



## (2) 農業地域別生乳生産量

### — 北海道の生乳生産量シェアは45.8% —

生乳生産量を農業地域別にみると、北海道は384万9,338 t（全国に占める割合45.8%）で最も多く、次いで関東が130万8,352 t（同15.6%）、九州が80万6,465 t（同9.6%）となっており、この3地域で全国の約7割を占めている。

また、農業地域別に平成10年と生乳生産量を比べると、北海道では増加しているものの、その他の地域では減少している。

図4 農業地域別生乳生産量シェア

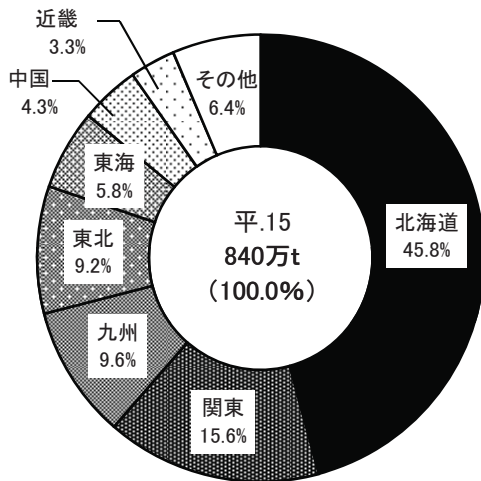
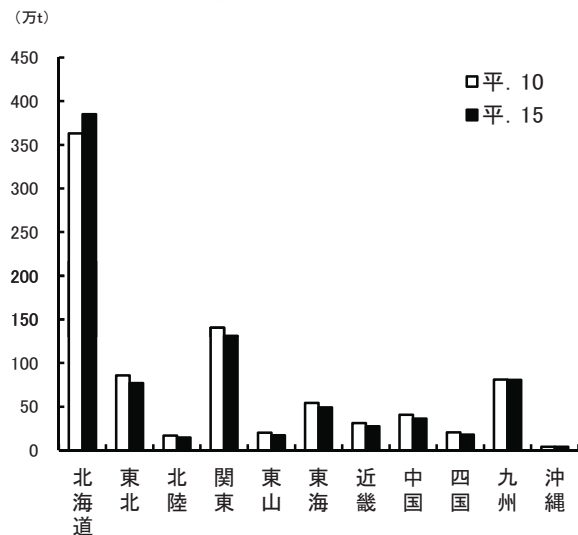


図5 農業地域別生乳生産量



### (3) 生乳の用途別処理量

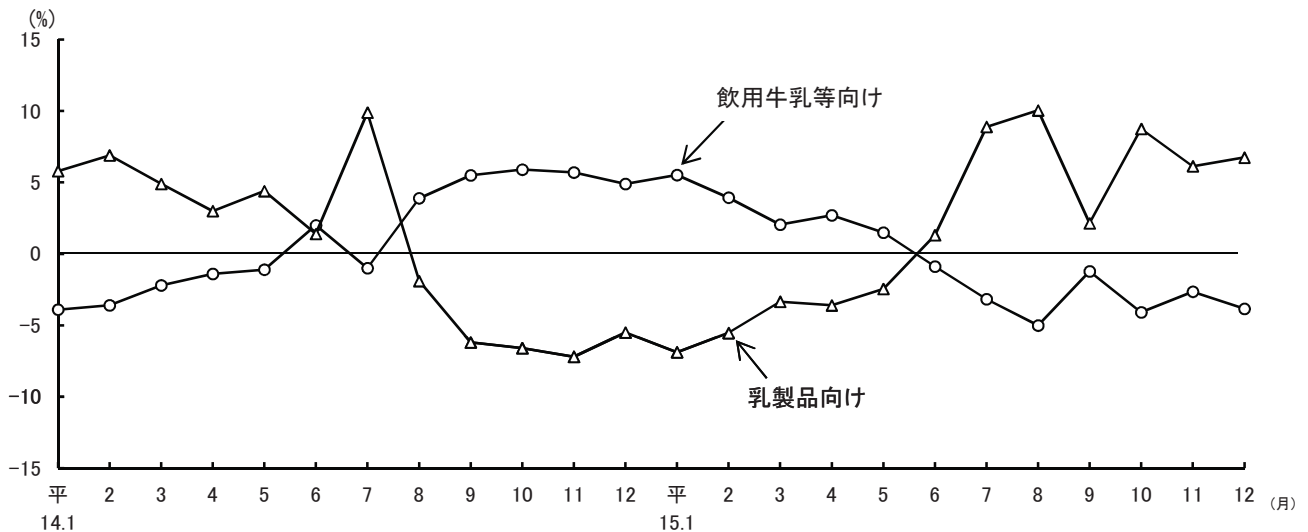
#### — 飲用牛乳等向け処理量は0.6%減少 —

生乳の用途別処理量をみると、飲用牛乳等向け処理量は497万4,103 tで前年に比べ0.6%減少した。

これは、加工乳の生産量が大幅に減少したことにより、飲用牛乳の生産量が減少したためである。

また、乳製品向け処理量は333万9,775tで前年に比べ1.4%増加した。

図6 生乳用途別処理量の前年同月に対する増減率



第1表 生乳生産量と用途別処理量

年次	実数				対前年比		
	生乳生産量	用途別処理量			生乳生産量	飲用牛乳等向け	乳製品向け
		飲用牛乳等向け	乳製品向け	その他向け			
平. 13	8 300 488	4 941 499	3 266 303	92 686	97.7	99.4	95.5
14	8 385 280	5 002 265	3 293 367	89 648	101.0	101.2	100.8
15	8 400 073	4 974 103	3 339 775	86 195	100.2	99.4	101.4

単位 { 実数:t  
対比:%

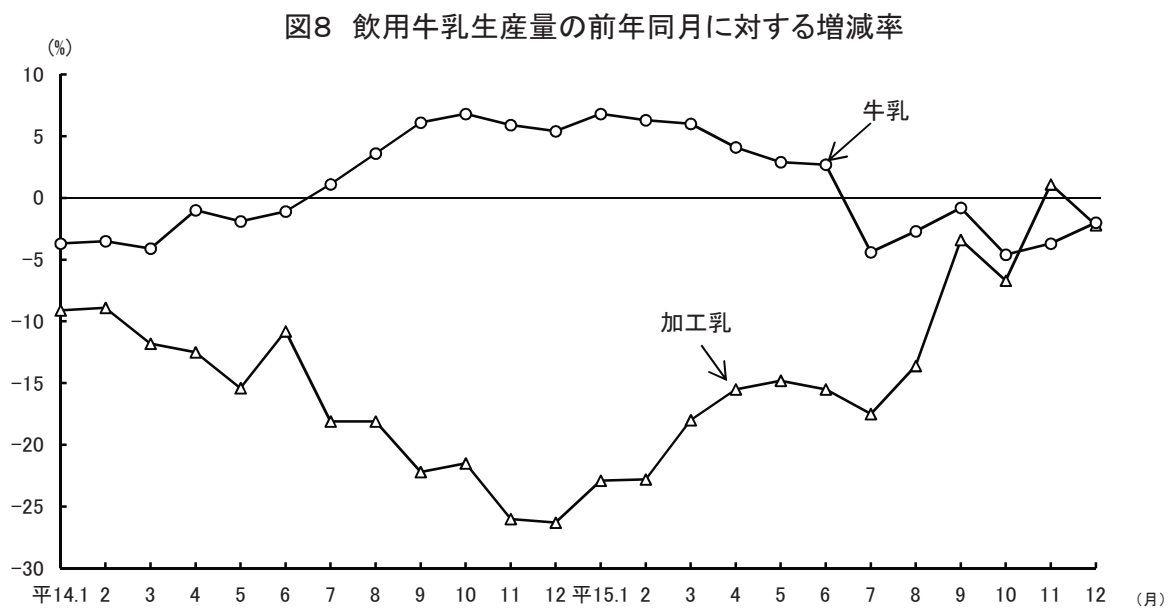
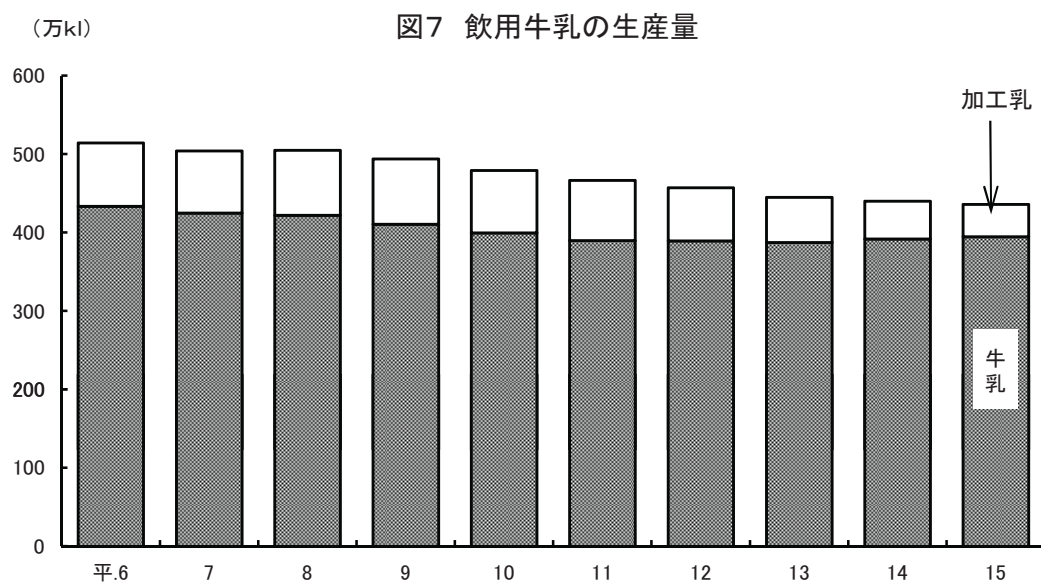
### 3 飲用牛乳等生産量及び乳製品生産量

#### (1) 飲用牛乳の生産量

— 飲用牛乳の生産量は0.8%減少 —

飲用牛乳（牛乳及び加工乳）の生産量は436万2,144k1で前年に比べ0.8%減少した。

これは、牛乳の生産量は394万6,191k1で前年に比べ0.7%増加したが、加工乳の生産量が41万5,953k1で前年に比べ13.2%減少したためである。



## (2) 農業地域別飲用牛乳生産量

— 関東の飲用牛乳生産量シェアは30.8% —

飲用牛乳生産量を農業地域別にみると、関東が134万2,058k1（全国に占める割合30.8%）で最も多く、次いで近畿が57万6,817k1（同13.2%）、東海が44万8,143k1（同10.3%）となっており、この3地域で全国の約5割を占めている。

また、農業地域別に平成10年と飲用牛乳生産量を比べると、北海道では増加しているもののその他の地域では減少している。

図9 農業地域別飲用牛乳生産量シェア

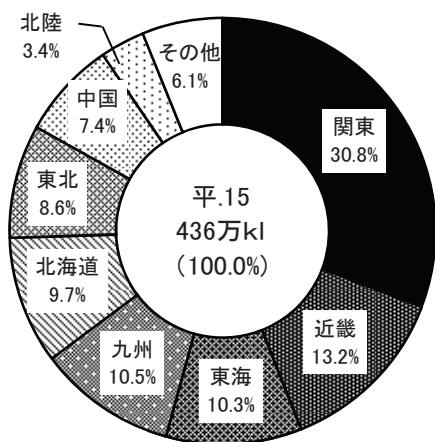
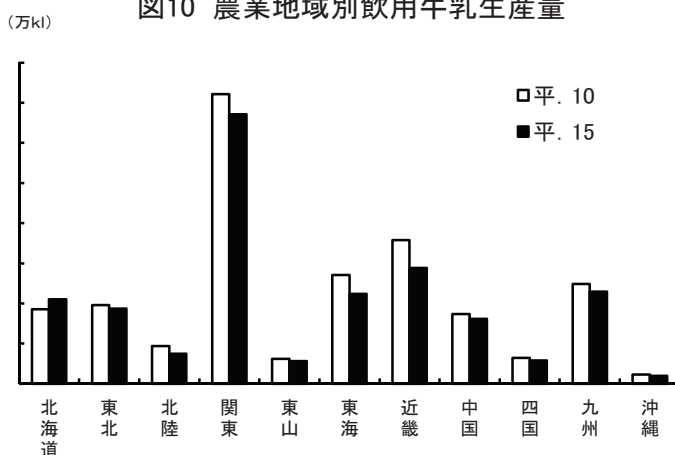


図10 農業地域別飲用牛乳生産量

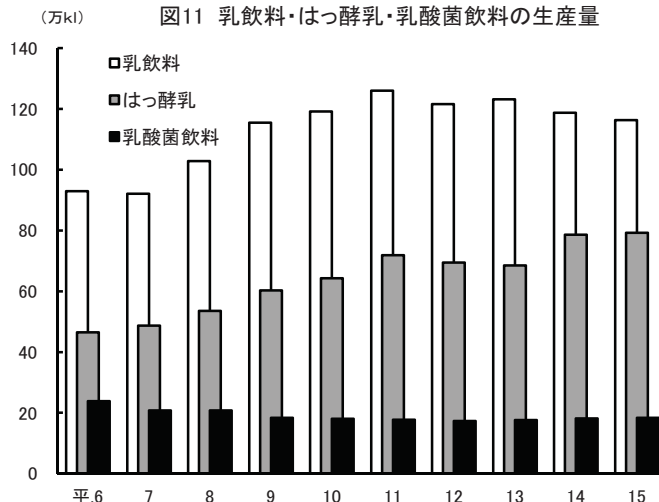


## (3) 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料の生産量

— 乳飲料は2.0%減少、  
はっ酵乳は0.8%増加 —

乳飲料の生産量は 116万3,588k1で前年に比べ2.0%減少し、はっ酵乳及び乳酸菌飲料は79万2,216k1、18万3,901k1で、前年に比べそれぞれ0.8%、1.0%増加した。

図11 乳飲料・はっ酵乳・乳酸菌飲料の生産量



第2表 飲用牛乳等生産量

単位 { 実数:k1  
対比:%

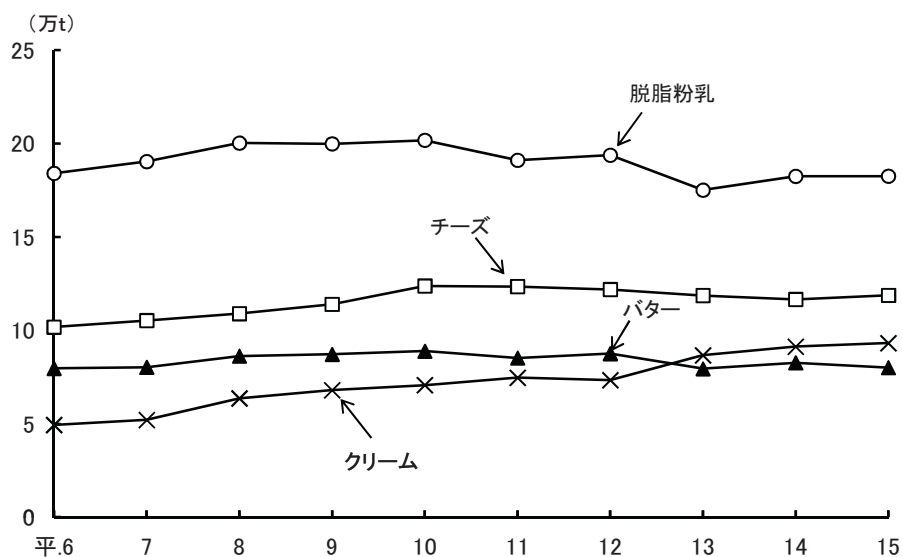
年次	実数						対前年比					
	飲用牛乳			乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料	飲用牛乳			乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
	計	牛乳	加工乳				計	牛乳	加工乳			
平.13	4 450 902	3 875 298	575 604	1 232 180	685 411	176 105	97.4	99.5	85.1	101.3	98.6	101.7
14	4 399 302	3 919 824	479 478	1 186 886	785 742	181 992	98.8	101.1	83.3	96.3	114.6	103.3
15	4 362 144	3 946 191	415 953	1 163 588	792 216	183 901	99.2	100.7	86.8	98.0	100.8	101.0

#### (4) 乳製品の生産量

##### — クリーム、脱脂粉乳で増加 —

主な乳製品の生産量をみると、脱脂粉乳は18万2,618 t（前年に比べ0.1%増）、チーズは11万8,778 t（同1.9%増）、クリームは9万3,228 t（同2.1%増）となり、バターは8万79 t（同3.2%減）となった。

図12 主要乳製品の生産量



第3表 乳製品生産量

区分	加糖れん乳	無糖れん乳	全粉乳	調製粉乳	バター	クリーム	チーズ	直接消費用 ナチュラル チーズ	脱脂加糖 れん乳	脱脂粉乳	アイス クリーム	単位		
												実数: t	対比: %	
平. 13	32 117	1 855	17 803	33 465	79 537	86 663	118 723	14 386	5 644	175 071	109	千kl		
14	30 453	2 452	16 580	37 318	82 744	91 308	116 564	13 692	5 068	182 518	100			
15	33 921	1 738	16 136	36 957	80 079	93 228	118 778	13 635	6 453	182 618	103			
対前年比	111.4	70.9	97.3	99.0	96.8	102.1	101.9	99.6	127.3	100.1	103.7			

## 4 牛乳処理場及び乳製品工場数

### (1) 処理場・工場数

— 765工場で前年より22工場減少 —

平成15年12月末日現在の牛乳処理場及び乳製品工場数は、前年に比べ22工場減少し765工場となった。

これを平成15年12月の月間生乳処理量規模別にみると、小規模な62 t 未満階層で最も多く13工場減少し、乳業工場の再編により1,240 t 以上の大規模階層でも減少している。

なお、牛乳処理場及び生乳を処理した乳製品工場のうち、62 t 未満階層が全体の55.5% (401工場) を占めている。

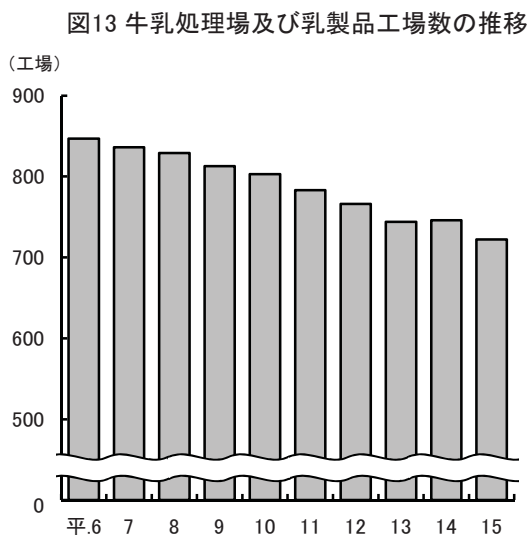
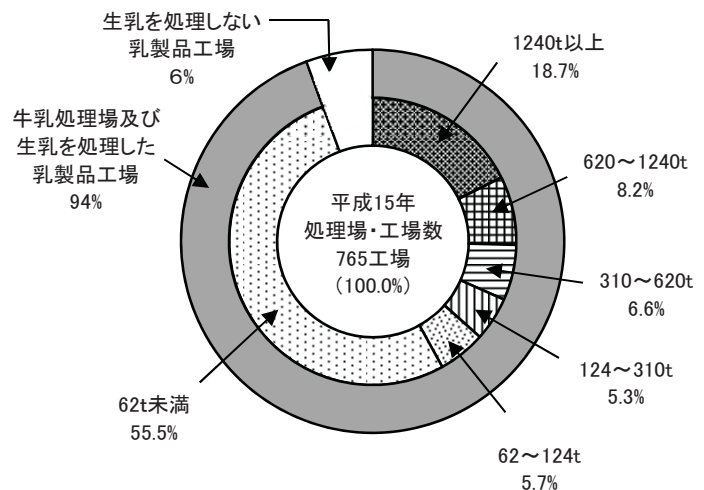


図14 平成15年12月の月間生乳処理量規模別の処理場・工場数割合 (平成15年12月末日現在)



第4表 全国の牛乳処理場・乳製品工場数

単位：工場

区分	計	経営組織			12月の月間生乳処理量						
		会社	農業協同組合	個人・その他	62 t 未満	62 ～ 124t	124 ～ 310t	310 ～ 620t	620 ～ 1,240t	1,240t 以上	生乳を処理しない乳製品工場
平. 15	765	492	66	207	401	41	38	48	59	135	43
14	787	506	69	212	414	42	41	52	58	139	41
対前年差	△ 22	△ 14	△ 3	△ 5	△ 13	△ 1	△ 3	△ 4	1	△ 4	2



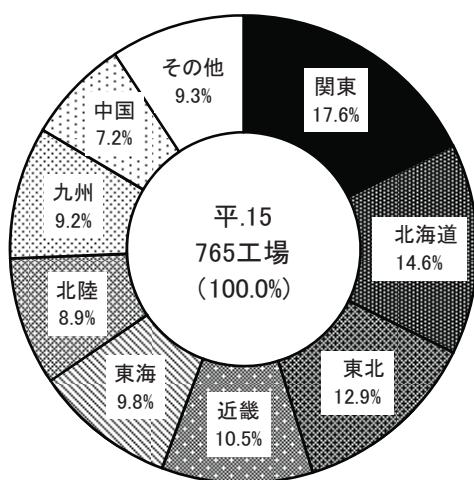
## (2) 農業地域別、製造品目別処理場・工場数

### — 関東の処理場・工場シェアは17.6% —

処理場・工場数を農業地域別にみると、関東は135工場(全国に占める割合17.6%)で最も多く、次いで北海道が112工場(同14.6%)、東北が99工場(同12.9%)となっており、この3地域で全国の約5割を占めている。

また、平成15年1月から12月に牛乳を製造した工場は610工場、加工乳・成分調整牛乳を製造した工場は218工場であった。

図15 農業地域別工場処理場シェア



第5表 飲用牛乳等と乳製品を製造した処理場・工場数

単位：工場

区分	飲用牛乳等			れん乳	粉乳	バター	クリーム	チーズ	乳脂肪分8%以上のアイスクリーム
	1)計	牛乳	加工乳・成分調整牛乳						
平. 15	611	610	218	49	59	71	77	122	153
14	...	...	...	50	63	74	82	115	149
対前年差	...	...	...	△ 1	△ 4	△ 3	△ 5	7	4

注：1 平成15年調査より、飲用牛乳等の調査定義を変更したため、前年比較はしていない。

2 1)は、飲用牛乳等を製造した実工場であり、計と内訳は一致しない。

3 れん乳は、加糖れん乳、無糖れん乳及び脱脂加糖れん乳を製造した延べ工場数であり、粉乳は、全粉乳、調製粉乳及び脱脂粉乳を製造した延べ工場数である。